

新学習指導要領にともなう「道徳・年間指導計画の改善」と 「主題構想と話し合いの組織化」による授業研究

足利市立第一中学校

はじめに

このたびの改訂で、道徳時間の指導内容は、これまでの13項目が16項目になり、また、これまでの各項目に(1), (2)という形で付記されていた二つの観点が「……とともに……」というひとつのつながりの文章となり括弧書きの形になった。改訂の特徴は、まず、学校の教育活動全体を通して行なう道徳教育は、まさに、道徳的実践そのものをねらいとし、道徳の時間においては、道徳的実践力をねらいとしている。この道徳的実践力は、道徳性(人間性)の意味に気づき、理解し、考えなおすことにあると思う。これらをふまえて、本校では、すでに作成されてある道徳の年間指導計画(現行13項目)を、改訂にそった16項目に手なおししてみた。しかし、項目によりたいへんばらつきが多く、特に項目7, 9, 15については、良い資料に欠け、今後も研究・検討するつもりである。

1 年間指導計画の項目別配列表

第1学年 は新設された項目

項目	主題名	資料名	出典
1 生命の尊重	生命の尊重 " 自制心 "	・貸しボート ・流されたテント ・盗んだ一冊の本 ・買い食い	・新しい道1年 ・中学校道徳自作資料選集 ① ・新しい道 1年 ・中学校道徳指導細案 1年
2 生活習慣	整理整頓	・ちょこちゃん卒業 ・印鑑	・自作資料選集 ② ・自作資料選集 ②
3 強い意志	強い意志	・バスケット部に入部したころ の思い出	・新しい道
4 自主自律	自主的態度 " 自主自律 責任をとる 責任感	・バイコロジーの旅 ・創作ダンス ・よごれた乗車券 ・名誉の失格 ・失敗した年賀状	・自作資料選集 ① ・新しい道 1年 ・自作資料選集 ① ・新しい道 1年 ・自作資料選集 ①

5	寛容と謙虚	ゆるす心 寛容 広い気持ち 反省 謙虚な態度	・たどんのてんぶら ・ふえ ・サルビアの鉢 ・使い ・貸してくれた松葉づえ	◦指導細案 2年 ◦自作資料選集 ② ◦〃 ① ◦〃 ① ◦新しい道 1年
6	勤労と幸福	生きがい 幸福の追求	・退部 ・エプロンおばさん	◦新しい道 1年 ◦道徳の自作資料
7	理想追求	理想追求	・植物とともに	◦指導細案 1年
8	人間愛	人間愛 〃	・名なしの墓 ・地図のある手紙	◦道徳の指導資料とその利用 1 ◦〃 2
9	自然愛	自然愛	・ハトのたまご	◦道徳の指導資料とその利用 1
10	友情	友情 〃 〃 〃	・贈りもの ・うらぎられた友情 ・お見舞い ・性こりなし	◦道徳の指導資料とその利用 1 ◦新しい道 1年 ◦自作資料選集 ② ◦道徳の指導資料とその利用 2
11	男女の敬愛	男女の理解 〃	・バレンタインデー ・山田くんへの手紙	◦道徳教育の課題 4(季刊) ◦新しい道 1年
12	家族愛	家族愛 〃 〃 健全な家庭	・祖母の入院 ・おじいちゃんの病気 ・おばあちゃんの里帰り ・父の作った朝食	◦道徳教育の課題 6 ◦新しい道 1年 ◦自作資料選集 ② ◦新しい道 2年
13	共同生活	集団と自己 〃 集団のきまり	・タイム1分1秒九 ・六位の六組 ・一本のつつじ	◦自作資料選集 ① ◦〃 ② ◦〃 ①
14	公共の福祉	正しい社会	・ふたつのサイフ	◦自作資料選集 ②

15	法と秩序	権利と義務	・国立公園を守る生徒会	◦新しい道 1年
16	国民的自覚	國 土 愛	・一冊のアルバム	◦新しい道 1年

第 2 学 年

	項目	主題名	資料名	出典
1	生命の尊重	生命の尊重 〃	・いのち ・白いつえ	◦新しい道 2年 ◦指導細案 2年
2	生活習慣	整理整頓 礼儀の意義	・トランベット ・万年筆とぞうきん	◦指導細案 2年 ◦自作資料選集 ①
3	強い意志	強い意志 〃	・補欠 ・雪の日のできごと	◦指導細案 ① ◦新しい道 2年
4	自主自律	自主自律 〃 責任をとる 〃 〃	・灰色の夕陽 ・野菜の絵 ・天体望遠鏡 ・入漁券 ・ガラス代一万六千円	◦自作資料選集 ① ◦〃 ② ◦〃 ③ ◦〃 ◦道徳教育の課題4
5	寛容と謙虚	寛容 〃 思いやり 寛容 反省と向上	・教育ママとボク ・相手が悪い ・清作と学 ・ふたりぐらい ・たびの季節	◦自作資料選集 ① ◦指導細案 1年 ◦自作資料選集 ① ◦〃 ◦指導細案 2年
6	勤労と幸福	幸福の追求 〃	・ある雑役夫の話 ・土方の父	◦新しい道 1年 ◦生徒作文より
7	理想の追求	理想の追求	・アイヌ語の研究にふみきる	◦中学道・主題構想と授業

8	人間愛	人間愛 〃	・集金 ・みかん	・新しい道 2年 ・指導細案 2年
9	自然愛	豊かな心	・自然の中の小さな命	・指導細案 1年
10	友情	友 情	・三十分の窓ふき	・自作資料選集 ②
		〃	・朝の購買部のできごと	・〃 ①
		〃	・リレーベンとう	・新しい道 2年
11	男女の敬愛	男女の理解	・アトラクション	・自作資料選集 ①
		男女の敬愛	・男子がこんなに親切だったのか	・指導細案 1年
		男女の理解	・女生徒の言い分、男生徒の言い方	・新しい道 2年
12	集団の意義	家 族 愛	・おばあちゃん	・道徳教育の課題 7
13	共同生活	集団生活	・学級新聞づくり	・自作資料選集 ①
		集団と自己	・優勝旗	・道徳の授業資料と発問
		〃	・わたしのわがまま	・自作資料選集 ①
		権利と義務	・ドロップハンドル	・新しい道 2年
14	公共の福祉	公共の福祉	・ゴミ収集車	・自作資料選集 ①
		正しい社会	・キザ男といわれて	・新しい道 2年
15	法と秩序	社会秩序	・踏切りの番	・新しい道 2年
16	国民的自覚	愛國心	・わが愛はヒマラヤのふもとに	・新しい道 3年

第 3 学 年

	項 目	主 题 名	資 料 名	出 典
1	生命の尊重 自 制 心	生命の尊重 自 制 心	・けがでよかった ・陸上競技大会	・新しい道 3年 ・自作資料選集 ②

	生命の尊重	生命の尊重	・華厳の滝	◦一中青柳教諭自作資料
2	生活習慣	整理整頓 礼儀の意義	・学級文庫 ・一枚のはがき	◦指導細案 1年 ◦道徳の指導資料とその利用
3	強い意志	積極性 強い意志	・給食委員 ・めざし	◦自作資料選集 ① ◦指導細案 2年
4	自主自律	自主自律 自主的態度 誠実な態度 自律の心	・残された1つのハードル ・バイク恐怖症 ・久三とつぼ ・原書	◦自作資料選集 ② ◦指導細案 ②年 ◦自作資料選集 ② ◦指導細案 3年
5	寛容と謙虚	寛容 反省 反省と向上	・裏切り ・電話 ・勝手なあいつ	◦自作資料選集 ① ◦道徳教育の課題 3 ◦自作資料選集 ①
6	勤労と幸福	働くよろこび 幸福の追求	・ネジ切り ・おばあちゃんの雪段	◦新しい道 3年 ◦道徳の指導資料とその利用
7	理想追求	理想追求	・桃花片	◦道徳の指導資料とその利用②
8	人間愛	人間の強弱	・脱落者	◦新しい道 3年
9	自然愛	豊かな心	・なめとこ山の熊	◦指導細案 1年
10	友情	友情 // //	・班編成 ・一冊のノート ・優勝の思い出	◦自作資料選集 ① ◦道徳の授業資料と発問 ◦//
11	男女の敬愛	男女の交際 //	・ある日のできごと ・幸一のためらい	◦新しい道 3年 ◦道徳の自作資料
12	家族愛	家族愛	・静代の修学旅行	◦自作資料選集 ②

13	共同生活	役割の自覚	・マネージャー ・キャプテン ・エゴイスト	◦新しい道 2年 ◦自作資料選集 ② ◦〃 ① ◦〃 ① ◦〃 ① ◦新しい道 3年
		"		
		"		
		集団の和	・野球部の川田	
		規律な生活	・無免許運転 " おみやげ	
14	公共の福祉	理想社会	・油が淵のつり人 " 指定席	◦道徳教育の課題 6 ◦〃 6
15	法と秩序	遵法の精神	・あだ名と選挙 " 制限時速 40 キロ	◦新しい道 3年 ◦指導細案 3年
16	国民的自覚	愛国心 人類の幸福	・一本の鉄 ・郷に入っては	◦道徳の自作資料 ◦道徳の授業資料と活用

◎ 今回の改善で新設された「資料」

- 1年 項目 ⑦ 植物とともに
項目 ⑧ 地図のある手紙
項目 ⑩ 性こりなし
項目 ⑯ 国立公園を守る生徒会
 - 2年 項目 ⑨ 自然の中の小さな命
項目 ⑮ 踏切りの番
 - 3年 項目 ⑦ 桃花片
項目 ⑨ なめとこ山の熊
- 中学校道徳指導細案 1年
文部省(中)道徳の指導資料とその利用(2)
文部省(中)道徳の指導資料とその利用(2)
新しい道 1年
- 中学校道徳指導細案 1年
新しい道 2年
- 文部省(中)道徳の指導資料とその利用(2)
中学校道徳指導細案 1年

2 次の2つの指導案は、本校の52年度の現職教育で、6月と10月に「道徳指導法研究会」として行なわれた実践例である。研究テーマは協同推進校のときと同じで、「道徳的心情を養うための資料の選定と話し合いの深化をはかる。」である。6月の研究会の資料は「キャプテン」であるが生徒の資料を読んでの感想から、批判と弁護が半数ずつをしめ、きねめて同質性の強い、深い話し合いがなされる資料といえる。一方10月の研究会の資料は「相手が悪い」であるが、批判が強く教師の前段での弁護への手こ入れ作業が大変な資料といえる。ともに指導案は各中学校へ配布ずみなので、ご検討ご指導をおねがい致します。

道徳指導案

指導者 南木 紀

学級 3年2組 (男子21名 女子18名 計39名)

- 1 主題名 集団の和
- 2 資料名 キャプテン 項目 10-(1)

3 資料の読みとりとねらい

(1) 資料の読みとり

ここに登場する、主人公キャプテンの生き方に関する意見を徵するならば、生徒は次の二つの初発の感想を表明するであろう。

(ア) キャプテンとしての立場を、みんなから責められたそのくやしさはわかるが、親友の順子から意見されたとき素直に受け入れず、カッとなり、退部願いを書いたのは、あまりにも自分本位である。

(イ) キャプテンだからこそ、率先して部の話し合いをしようとしたのだ。それなのに、一年生の安子の意見に悪のりして、親友の順子までがキャプテンを批判している。これでは、誰でも腹が立つ、しかも最後には退部願いまで書いて反省しているのだから、頭からキャプテンを批判するのはよくない。

(2) ねらいの限定

以上のような資料の読みとりから、ねらいを項目10-(1)に即して、次のように限定した。
「集団の和を重んじ、進んで自己の役割を果たし、集団生活の向上に貢献しようとする態度を養う。」

4 主題構想の要点

(1) 話し合いのしめくくり方

ねらいを達成するための話し合いの落ちつけ先は、「一年生の安子の意見では素直に受け入れられたのに、親友の順子ではなぜ反発するのか。」また、「退部すればすべてがすむ。」という安易なキャプテンの態度に焦点をあて、批判的に追求させ、主人公キャプテンに足りなかったのは何であったかをつきとめさせて、ねらいに迫るようにしたい。

(2) 共通問題意識の設定

「みんなから批判され、退部願いまで書いた主人公が、素直に頭を下げる気持ちになったのは、どうしてだろうか。」

(3) 展開の前段

話し合いの落ちつけ先からすると、当初にでる批判論の裏側にひそむ弁護論を堀り出して、できるだけ主人公をかばおうとすることから、授業を展開していくみたい。そのためには、キャプテンはチームのことを考えて、みずから話し合いを持つのだ。チームの中心人物として、これは立派な行為であること。また、親友の順子までが一年生の安子の意見にわるのりして、キャプテン批判するなんてひどすぎるという二つの事実に焦点を合わせ、弁護しやすいように配慮する。

(4) 展開の後段

ここは、主人公キャプテンについて、できるだけ批判させることが肝心である。つまり、主人公のふるまいの中に、どうしてもかばいきれないものがあるという見方をさせる必要があろう。それをしっかりと生徒にとらえさせ、主人公のものの考え方や感じ方をねらいに照らして、なお足りない点があることをつきとめさせたい。

(5) 配慮事項

この資料の主人公の考え方や行動についての感想を事前にまとめておく。

教 師 の 発 問	期 待 す る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ○ あらすじを確認する。 ○ キャプテンの生きかたについて、どのようなことを感じたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ （批判論）（キャプテンの立場をみんなから責められて、そのくやしさはわかるが……。）親友の順子が一年生の安子の意見に賛成し、キャプテンの批判をしたとき、それを素直に受け入れられず、かえって「私をみんなでいじめている。」と受けとり、腹を立て、退部願いを書いたことは自分本位である。 ○ （弁護論）キャプテンだからこそ、率先して部の話し合いをしようとした。それなのに、一年生の安子の意見に同情して、親友の順子までが、キャプテン批判している。これでは腹が立つの無理ない。「順子だけには反発したくなる。」というキャプテンの気持ちはよくないが、最後には退部願いまで書いて反省しているのだから、頭からキャプテン批判するのはよくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習にのぞむ生徒の士気を高めるために、問答形式をとる。
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 共通問題意識の設定 	<p>キャプテンをかばう意見もあるが……。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> いったいキャプテンは何を反省したのか。また、そのような結果をまねいたのは、キャプテンの考え方や行動のどこに問題があったからなのだろうか。 </div>	

主人公	<p>(第一発問) キャプテン批判がかなり強いようだが…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いったいキャプテンは、順子や他の部員たちに、どういう態度をとったのか。またそれは、どんな考えがあったからか。そうしたキャプテンの考え方や行動についてどう思うか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャプテンはチームのためを思い、ミーティングを持ったのだ。一回戦でいいから勝ちたいという願いがよくでている。だからチームメートからほめられるべきで、非難などされるべきでない。 ○ キャプテンとしての立場で話し合いを持ったのはほめられるが、一年生安子の話し合いには素直だったのに、級友の順子のときにはカッとなり、部屋をとび出してしまったのはわがままである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初発の感想での弁護論を生かすようにする。
	<p>(第二発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チームの勝ちを願うなら、キャプテン1人を責めるのではなく、自分たちの非をも認める方向への話し合いであってよいはず。それを順子はキャプテンにどういう態度をとったのか、これを考えても、いけないのは順子たちの方ではないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一年生安子の意見こそチームの悩みであったはず。だから、順子に安子と同じことを言われても素直に聞き入れられていいはずだ。しかし、親友の順子ではいやだというキャプテンの態度は感心できない。また、部をやめればすむということではない。 ○ キャプテンがあれほどチームのことを心配しているのを、順子はわかっているはずである。それなのに、敗戦の責任をキャプテン一人にかぶせるような発言をされでは、がまんできないのは無理はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安子ならいいというキャプテンの気持ちを浮き出させ、順子では反発してしまう気持ちの変化を読みとらせる。 ○ 自分本位なキャプテンの気持ちを引き出す。
	<p>(第三発問) (どうやら、キャプテンの順子に対する態度は、いくらかばおうとしても、かばいきれないものが残るが……。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一年生の安子のときは素直に反省しても、親友の順子から忠告めいたことを言われたので、ついカッとなってしまったのだろう。そこには、自分本位で、相手(チーム)のことなど考えないキャプテ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主人公弁護から、批判へ切りかえる設問である。

<p>○ いったい、親友の順子から、安子と同じことを言われたとき、それを素直に聞き入れられなかつたのは、キャプテンの生き方のどこに問題点があるのか。</p>	<p>ンの生き方に問題があると言えるであろう。</p>	
<p>(第四発問)</p> <p>○ 「どうみてもキャプテン失格である。順子からどんな批判を受けてもしかたがない。」と言っているながら、「素直に聞き入れられない。みんなの前で言うなんて、よけい反発したくなる。」などと言っているキャプテンの生き方にはやはり問題があるようだ。</p>	<p>○ チームが勝つためにはどうしたらよいか。広い視野で判断できないこのキャプテンのひとりよがりの欠点がよくでている。</p> <p>○ 集団の中での自己の役割を果たすということは、ときとして、自我をすることである。キャプテンとして、その心がまえを、いつも持っていたならば、安子のときと同様に順子の発言のときでも素直に聞き入れられたはずだ。そこにキャプテンの生き方に問題点があろう。</p>	<p>○ 順子の方にも、チームワークとして欠けるものがあったことを付記しておく。</p>
<p>○ 退部しようとした主人公が、すなおに頭を下げる気持ちになった決め手は何であったか。</p>	<p>○ 集団の中では、ひとりよがりな生き方をせずに、より忠実に自分の役割を果たすことが大切である。</p>	

6 生徒の資料を読んでの感想から一話し合いを深化(組織化)するための分析

批判論 13人, 弁護論 15人, 中間派(やや弁護, やや批判) 10人

感想文の分析より、批判と弁護とが、平均化したので、読みもの資料としては良いものである。中学三年生ともなると、部活動の主将であり、中心選手として活躍するものも多く、この物語の主人公を我が身におきかえて、活発な話し合いが展開された。はげしいぶつかり合いが期待される内容のある感想文なら、前段でのキャプテン弁護もスムーズにゆく。以下は生徒の感想文の中で特に目立った弁護、批判をのせてみた。

批判論 ○

- ④ An 安子に言わされたとき、ハッとしたのなら、なぜそこで反省しなかったのか。順子のことばのあとにでも、すぐにあやまってしまえばよかったと思う。
- ⑤ Is 順子さんがえらい。みんなの前で、はっきり言った態度が……。言ったことで、敏子さんがカッとなり、考え、悔むから敏子さんだって変ってくるのだ。
- ⑥ Or 一口に言ってキャプテン失格だと思う。試合でも常にリードをとり、冷静でなくてはならない、負けているときなど、中心の軸がくずれではチームワークが乱れる。
- ⑦ Ka たかがあのくらいで、やめようなんて考えが甘すぎる。みんなから言わされたとき自分もそうだと思ったなら素直に聞き入れるべきだ、キャプテンとして任命された以上は。
- ⑧ Ma このキャプテンは弱いやつだ。頭の中ではちゃんとしたことを考えられるのに。行動となると、まるでそれを実行できない。
- ⑨ Ya キャプテンなら、みんなの言葉など、けちらしても部をリードするのが勤めだと思う。私はこの主人公は甘ったれてると思う。それが情けない。
- ⑩ Mi 反省会のとき、もっと良い反省が出てくるような普段のリードやムードづくりがなかったように思う。キャプテンとして失格です。

弁護論 ○

- Ko 今度こそはと思って開いた反省会で、みんなに、あんなことを言われて……。あれではあんまりだと思う。私は同情する。
- To キャプテンを盛り上げなくてはならないのは、他の部員だろう。それをキャプテン1人に責任をとらせてしまうのはいけないと思う。
- Ok 部長の任務は果たしていたのに、ののしられてはプライドが許さない。つい軽はずみに出た言葉が、人を傷つけ、とりかえしのつかないことに発展してしまう。こういうことは家庭でも、クラス内でも大事なことです。
- Og 特に自分から、あやまろうと思ったときに、激しく非難されでは、その気持ちもどこかえ行ってしまう。そんなふうにされると、どうも素直になれなくなる。
- Sa 僕のサッカー部も勝ったことがない。だからキャプテンの気持ちは良くわかる。くやしくて反省会を開くなんて、とても偉いと思う。
- Te やはり親友というのは信じきっている。だからその人に責められでは、頭が混乱してしまう。ぐっとこらえるなんて無理かもしれない。ほんとうにキャプテンはつらい。
- Ha 試合中、ごわくて誰かに頼りたいという気持ちは、だれにもある。何十回試合に出ても同じだと思う。安子さんも悪いです。

今回は研究会なので、これらの感想文を、教室の座席表どおりに配列しなおし、一目で批判と弁護がわかるようにし、話し合いの組織化がよりうまくいくよう工夫してみた。

道徳指導案

指導者 桑原忠三郎

学級 1年 1組 42名

1. 主題名 寛容
2. 資料名 相手が悪い 項目5-(1)
3. 資料の読みとりとねらい

(1) 資料の読みとり

資料の主人公の生き方に関する意見を徵するならば、次の二つの感想を表明するだろう。

(ア) 「石山は自分勝手だ。」「入部したからには、しっかり練習すべきだ。」「バレーは、チームプレーだから協力すべきだ。」という意見と、

「自分の計画があるのだからしかたがない。」「無理しなり、夢中になりすぎたりしたくな
い。」、「一方的におしつけなくともよい。」

(イ) 以上のような感想が出されると思う。特に試合には勝ちたいという意識は強く、そのための
石山批判は強いと思われる。石山の身勝手は許しがたく、春夫の考え方と共に感するであろう。
しかし、「バレー部に入ったら練習すべきである。」というとらえ方には、多分に観念的な受
けとめ方をしている場合がある。この場合には、タテマエ論としての見方におちいりやすいの
で、一度くずしてから、本当に自分のものとしての論理を身につけさせたい。

(2) ねらいの限定

以上のような資料の読みとりから、ねらいを項目5-(1)に即して、「夫それぞれ、ものの考え方や個性も異なることを知り、それらを重んじていこうとする態度を養う。」と限定したい。

4. 主題構想の要点

(1) 話し合いのしめくくり方

バレー部のため、あるいは石山のためを思って忠告する春夫の態度に焦点をあてて、ややす
べちになっている石山の立場を理解してやる心の余裕がなかった春夫に気づかせ、その点をつく
ことによってねらいを達成させたい。

(2) 共通問題意識の設定

石山の考え方や行動には非難される点もあるが、それだからといって春夫の考え方や態度も絶
対だとは言いきれない。それはなぜだろうか。

(3) 展開の前級

授業の前半においては、「試合に勝ちたい。そのためには、日曜日も……。」という春夫の気
持ちに共感させ、なげやりになっている石山を批判させる。石山の、ふてくされて、やす
べちになっている点に対して、春夫の、スポーツに対する情熱や練習に対する前向きな姿勢とい
うものを強調する。

(4) 展開の後段

授業の後半は、立場を変えて石山の側に立って考えてみる。石山には石山の考え方の立場があ
ることに気づかせる。そして、春夫の一方的な態度は無条件で受け入れてよいものかということ

を問い合わせ、春夫批判論を強めたい。たしかに石山を説得しようとする春夫の言動は立派であるが、その口調や態度の底には、自分の考えが正しいのだとして、相手をなじるような調子はうかがえても、相手を理解してやるという余裕が見られなかつことに気づかせ、春夫批判の立場からねらいにせまりたい。

(5) 配慮事項

この内容は2時間扱い、事前に資料を与え、第一時間目に資料の読みとりをじゅうぶんに行ない、感想を書かせる。本時は第2時間目の指導である。

5. 展開の大要

	教師の発問	期待する生徒の反応	指導上の留意点
初発の感想	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらすじの確認をする。 ○ 春夫の考え方や行動のしかたについて、どんなことを感じたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 春夫の考え方や行動は正しい。賛成できる。石山は理屈ばかり言って自分勝手だ。 ○ もっと熱心に練習すべきだ。 ○ 「スポーツは苦しむためののだ。」という石山の考えはわかる。しかし、石山だけ責められない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石山を批判し、春夫に共感する生徒が多数であることが予想される。 ○ 石山を弁護する生徒は小数と思われる所以、この意見をたいせつにする。
	<p>共通問題意識の設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 石山の考え方や行動には非難される点もあるが、それだからといって、春夫の考え方や態度も絶対だとは言いきれない点もある。それはなぜだろう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ○ 初発の感想の中から問題意識を持たせる。話し合いの中から焦点化をはかる。
	<p>(第一発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日曜日までも練習しようとする春夫の気持ちをどう思うか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームが勝つためのことを思うその熱意はわかるが、日曜日までやるのはいきすぎだ。 ○ 自分の計画があるのだから、自由にさせたらよい。 ○ 試合も近いのだし、勝つためにはしかたがない。 ○ 自分の都合よりチームのことを考えるべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ここでは、どちらかを言うと、春夫批判、石山弁護の立場をとる。
	<p>(第二発問)</p>		

主 人 公 の 言 動 追 求	<ul style="list-style-type: none"> ○ 春夫の考え方から石山を見た場合、問題となることはないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チームのため、石山のためを思う春夫の気持ちもわかつてほしい。 ○ バレ一部に入部したからには熱心に練習すべきだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石山批判の立場から、石山の問題点を洗い出し、春夫弁護を強める。
	(第三発問)	<ul style="list-style-type: none"> ○ そうすると、やはり石山は自分勝手すぎるだろうか。このことを石山の立場に立って考えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ たしかに、石山の考え方には多少の問題はあるが、日曜日くらいは吉野勝つため。 ○ モー山が勝つをあきらめたり言って、個人の考えを無視するのはいきすぎだ。
	(第四発問)	<ul style="list-style-type: none"> ○ バレ一部のため石山のためを思っての春夫の熱意はわかるが、それだからと言って、石山に対する春夫の考え方や態度に問題はなかっただろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バレ一部のため、石山のためを考えての忠告だが、春夫の口調には相手をなじるようなところがあり、いくぶんやけになっている石山にかえって、いじをはらせてしまった。 ○ 石山のやる気がなくなったわけを聞いてやる心の余裕があればよい。
	(第五発問)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石山の立場になって考えてみると春夫のチームを思い、石山にせまつた態度の中に欠けていたものは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手の立場や考え方のちがいをよく理解し、それをよく聞こうとする心のゆとりを持つことだ。
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の意見や感想を総括する含みで、教師の感想をのべ、しめくくる。 	

生徒の「資料を読んでの感想」から

主人公「春夫」の弁護が圧倒的に多い。生徒42名中、実に31名が弁護である。しかも残りの11人にもしても批判でなく、中間意見の者ばかりである。このような資料では、前段での弁護への手こ入れの段階で、春夫批判をするさい、強力な批判者がクラス内にいないとき、いかに話し合いを組織化するかが最大のポイントとなる。

- 批判論（やや中間派に属する。）
 - Ka 春夫の生き方には、ちょっとしか賛成できない。時間は自分のものだから。
 - Wa どっちの生き方が正しいかいえない。石山の生き方もわかるような気もする。一週間ぐらい前から、部活動の予定を決めておけばいい。
 - Ka この主人公の気持ちはよくわかる。いらいらして忠告したくなるだろう。でも、石山の言ったこともよくわかる。スポーツは楽しむものだから。
 - Se 私は石山の考え方は正しいと思う。無理したり夢中になりたくない。でも石山も練習しているときは真剣になればいい。
- 弁護論
 - Og 石山は他の部員の気持ちも知らず…。首にしてしまえ。簡単にレギュラーになれて練習に出て来ないなんて頭にくる。
 - Ha 春夫の説得に、石山は自分勝手な理屈を並べた。練習したくないなら、退部すればよい。
 - Ka バレーはチームワークが大切、そんなことで練習をやらないのは絶対にまちがっているし、つりに行くなんて、絶対にゆるせない。
 - Ka 春夫はすばらしいものを持っている。石山をたすける気持ちはわかるが、石山がやる気がないのだからしょうがない。
 - Tu 石山はふざけている。勉強がおくれているならやめろ。前はもっとやる気があったんだから、その時を思い出してやればいいのだが。
 - Ai 部活は楽しくやるものでない。石山の考えに反対だ。
 - Mu 勝つために練習しなければ、真剣になれない。真剣にやらなければ楽しくない。努力でレギュラーになった春夫がやる気のない石山に腹が立つのはあたりまえ。
 - Ha 石山は変だ。勝たなければ何もならない。目標に向かって練習しなければ意味がない。

(文責 南木 紀)

評

文部省道徳教育協同推進校として、2か年の研究期間が終了した後も、継続研究が進められ、点から面への拡大に努められてきた成果は極めて大であると思う。「話し合いの組織化」の研究も一層深められ、道徳的判断力のみならず自他の気持ちや感情に対する堀り下げも十分なされ、社会的感受性も育成されてきているように思われる。もちろん「話し合いの組織化」が指導法のすべてではないが、今日では、避けて通ることのできないすぐれた指導法の一つになっている。各校とも、この論文をはじめ、推進校の研究成果を十分吸収していただきたい。また、年間指導計画の作成にあたっては、各校とも資料の選択・収集に苦慮されていると思われる所以、本研究の資料も参考にしていただきたい。なお、主題の配列にあたっては、内容16項目を構造的にとらえるとともに、重点目標に照らして思いきった重点化を図っていただきたい。